

特集

学生ボランティアによる 神山祭向け天文台公開イベント

竹中慶一（神山天文台ボランティアチーム）

1. はじめに

神山天文台は京都産業大学キャンパス内に位置し、学生が利用しやすいように様々なイベントを開催しています。この天文台には口径 1.3m の荒木望遠鏡が備わっており、天文台で開発した観測装置を使用した研究が行われているだけでなく、毎週土曜日には一般観望会が開催される非常に特色ある天文台です。本稿では、京都産業大学の学生で組織される「神山天文台ボランティアチーム」が、京都産業大学の学園祭である神山祭での天文台公開イベントについて報告します。

2. 神山天文台ボランティアチームとは

私たち、神山天文台ボランティアチームは天文台で天文学の広報・普及活動を行う学生主体の団体で 2011 年に結成されました。現在の構成員は 35 人です。京都産業大学が総合大学であるため、理学部と総合生命科学部、経済学部、経営学部、外国語学部、文化学部などの様々な学部の学生が参加しています。理系の学部に限らず、文系の学生も所属しているため、私たちは理系の視点だけでなく、文系の視点からも見ることができ、天文学に対する視野を広げることができます。

私たちは、天文学に興味があるだけでなく、将来、天文台などの学芸員として働きたい、研究者の方々と交流を持ちたい、など様々な目的を持ってボランティアに参加しています。観望会や Mitaka3D 上映、科学教室の実施など様々な活動を通して、来て頂いたお客さんに神山天文台を知って頂

き、天文学で京都産業大学を盛り上げていくことが私たちの大きな目標です。

3. 神山祭向け公開イベント

今年の 11 月 2 日(土)、3 日(日)、4 日(月・祝)に開かれた神山祭には、公開イベントとして、Mitaka3D 上映と荒木望遠鏡の解説を実施しました。

今回の目的は、神山天文台を広めることと、宇宙・天体に興味を持ってもらうことです。実施にあたって、神山祭のパンフレットに天文台のイベントを記載し、立て看板にフロアの案内や 3D 上映の始まる時間を記入、呼び込みを行い学内にいる人への周知を行いました。

今回、Mitaka3D 上映が行われるサギタリウスホールの収容人数を超える来場者が予想されたため、各回 70 名分の整理券を配布しました。上映は、13:00～、15:00～と 1 日に 2 回実施しました。Mitaka3D 上映では、夏の星座と秋の星座、惑星などの解説を行いました(図 1 は上映前の風景)。荒木望遠鏡のあるドームでは、来場者が来るたびに随時、荒木望遠鏡の解説を行いました。Mitaka3D 上映では、宇宙や天体に興味をもってもらえるようにし、望遠鏡解説では実際に研究でどのように使われるかを知ってもらうようにしました。

今回の公開イベントではそれぞれの日に 6、7 人ずつボランティアチームの学生が参加しました。ドーム内には解説員を 2 人、ホールには解説員 1、2 人と補助を 1 人、受付に 2、3 人、誘導に 2 人配置しました。このように配置したのは学園祭のためにボ

ランティア人数が少なく、それぞれの位置に均等に割り振ったためです。人数は少なかったのですが、うまく誘導ができ、円滑に進めることができました。



図 1 Motaka3D 上映前の様子

4. 結果・反省点

来場者数は 2 日(土)に 178 人、3 日(日)に、218 人、4 日(月祝)に 151 人で合計 235 人(学内生は 32 人)でした。来場者に天文台に来た回数と満足度、今後のイベントに参加したいかについて、アンケートを実施しました。天文台に来た回数を集計したところ、初めて来たと答えた人が特に多いことから、一般観望会とは違った客層にアピールすることができたと考えられました。また、満足度に関しては満足に思った方からは「宇宙が少し分かりました。」や「宇宙って素晴らしい。深い話をもっと聞きたくなった。」など、目的としていた宇宙に興味をもってもらうことには効果があったと考えました。また、今後のイベントに参加したいかについては、「是非参加したい」と答えた方よりも「機会があれば参加したい」と答えた方が多かったので、イベントを自ら探す方よりも、何らかの機会を待つ方が多いことが分かりました。

一方、満足度で「不満」と答えた方から「内容が難しい」や「(立体映像上映中の)

途中入場によって集中できない」などありました。これらについては、ボランティアチーム内で反省点・改善点として話し合いました。その結果、発表者によって話す内容の難易度が異なっていることが分かりました。今後はわかりやすい説明をするために練習を重ねていくことが大切だと考えています。また、3D 上映の途中入場については、事前に特に決めておらず、現場で適宜判断をしていました。そのため、途中入場によって上映が困惑することもありました。今後はこのような事態が起こらないように、誘導と上映者側で途中入場の時間を決めていきたいと考えています。

5. 今後の展望

今回の神山祭でのイベントを通して、多くの方に宇宙・天体に興味を持っていただけたと考えています。今後は、私たちの大きな目標である「京都産業大学を天文学で盛り上げる」を達成するための第二段階として、さらに多くの方に神山天文台に足を運んでいただけるような活動へと広がっていきたくと考えています。そのため、今後は次のような活動を行いたいと思います。まず、毎年、年 2 回学内向けに観望会を行っているのですが、その回数を増やしたいと考えています。また、観望会では荒木望遠鏡による観望と小型望遠鏡による観望の 2 つの見世物しかないなので、その見世物の種類を増やすか、または改善を行い、観望会自体の向上を考えています。そして最後に、イベントの情報を外へ発信するために、Twitter や Facebook を活用していきます。

竹中慶一

神ボラの Twitter

@kamibora